

## 今月の TOPICS 「コナラ樹のナラ枯れ被害」

5月上旬、久しぶりに電車に乗り、「やどりき水源林の沢に棲む水生生物」調査に出かけました。やどりき水源林（神奈川県の水源地の森林づくり見本林）はJR御殿場線松田駅から車で約30分の丹沢山中にあります。

同僚の車に同乗させてもらい、車窓から新緑燃える山々の山肌を眺めながら、沢沿いの道を遡っていくのですが、新緑の中に、ぽつぽつと茶色の枯木が目立ちました。これが近年問題となっている「ナラ枯れ」なのです。

今月のTOPICSではあまり面白くないテーマですが、「コナラのナラ枯れ」を取り上げます。

枯れる原因はナラ菌（病原菌）という糸状菌（カビ）によるものということが解明されています。この病原菌は「カシノナガキクイムシ（略名：カシナガ）」という小さな甲虫が媒介します。カシナガの雌の背中に”菌のう”という”ナラ菌”を貯蔵する器官があり、コナラの株元に穿入し、この菌を増やして食べて一生を過ごすということです。この菌が樹内で繁殖すると樹液が上がりなくなって、枯死するというのです。

ナラ枯れはブナ科（どんぐりの木）の樹木に感染するというのですが、特にコナラの大径木の被害が目立ちます。

私の散歩コース、横浜国際プール構内の遊歩道、牛久保公園遊歩道にも、昨年からのこの被害が出始めていました。牛久保公園の場合は昨年末、横浜市の公園課が被害木を伐採処理したのですが、国際プールの方は、今のところ成り行きに任せています。

写真は牛久保公園のナラ枯れ駆除のため、コナラの大径木（直径5～60cm）を伐採した株元、横浜国際プール遊歩道のコナラ株元に「カシナガ」が穿入した跡と枯死した大径木です。両公園とも、都筑区大規模開発前の元の里山を生かした公園です。

ガス、水道、電気を総称して、ライフラインという言葉が使われていますが、少なくとも昭和三十年代までは、都市部を除いて燃料にはマキや炭、飲料水には井戸水が使われていました。燃料のマキや炭はすべて里山から供給され、里山の最も多い樹種はコナラ（ミズナラ）だったのです。

したがって、里山や里山をそのまま利用したいずこの公園も、コナラの木は樹齢5～60年の大径木となり、「カシナガ」による被害が増えているのです。

以上